

二本松市水道審議会

二本松市建設部上下水道課水道管理係

2022年11月10日

1. 料金体系

- ・二本松市では、消費税増税に伴い、令和元年10月以降現在の料金体系に設定している。
- ・ただし、地区ごとによって料金体系はバラバラな状態となっている。
- ・4人世帯とした場合の1ヶ月あたりの平均的な水道料金は地区ごとに大きな差がある。

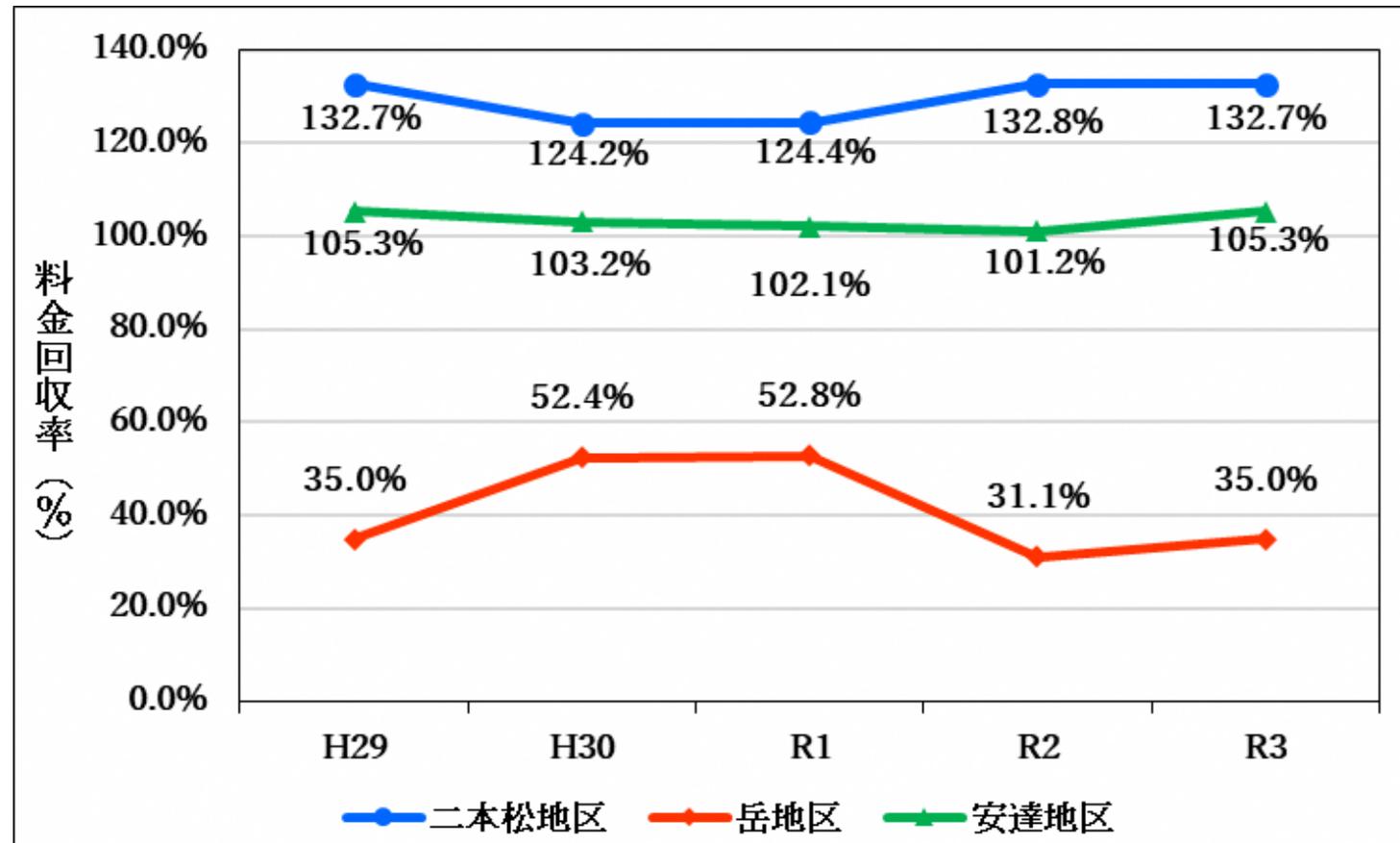
地区	料金体系区分	4人世帯の1ヶ月あたりの水道料金
上水道二本松地区	準備料金＋水量料金	4,021円
上水道岳地区	準備料金＋水量料金	3,608円
上水道安達地区	メーター使用料＋基本料金＋超過料金	4,952円
岩代簡易水道地区	基本料金＋水量料金	4,576円
東和簡易水道地区	メーター使用料＋基本料金＋超過料金	4,687円

出典：二本松市公式ウェブサイト「水道料金・加入金」<https://www.city.nihonmatsu.lg.jp/page/page000578.html> (2022/11/08)

2. 供給単価・給水原価

- ・二本松地域（岳地区をのぞく）では、料金回収率が120～130%と高い数値で推移している。
- ・安達地域についても105%前後で安定して推移している。
- ・岳地区に着目した場合、供給単価に対して給水原価が約3倍程度あることが分かる。

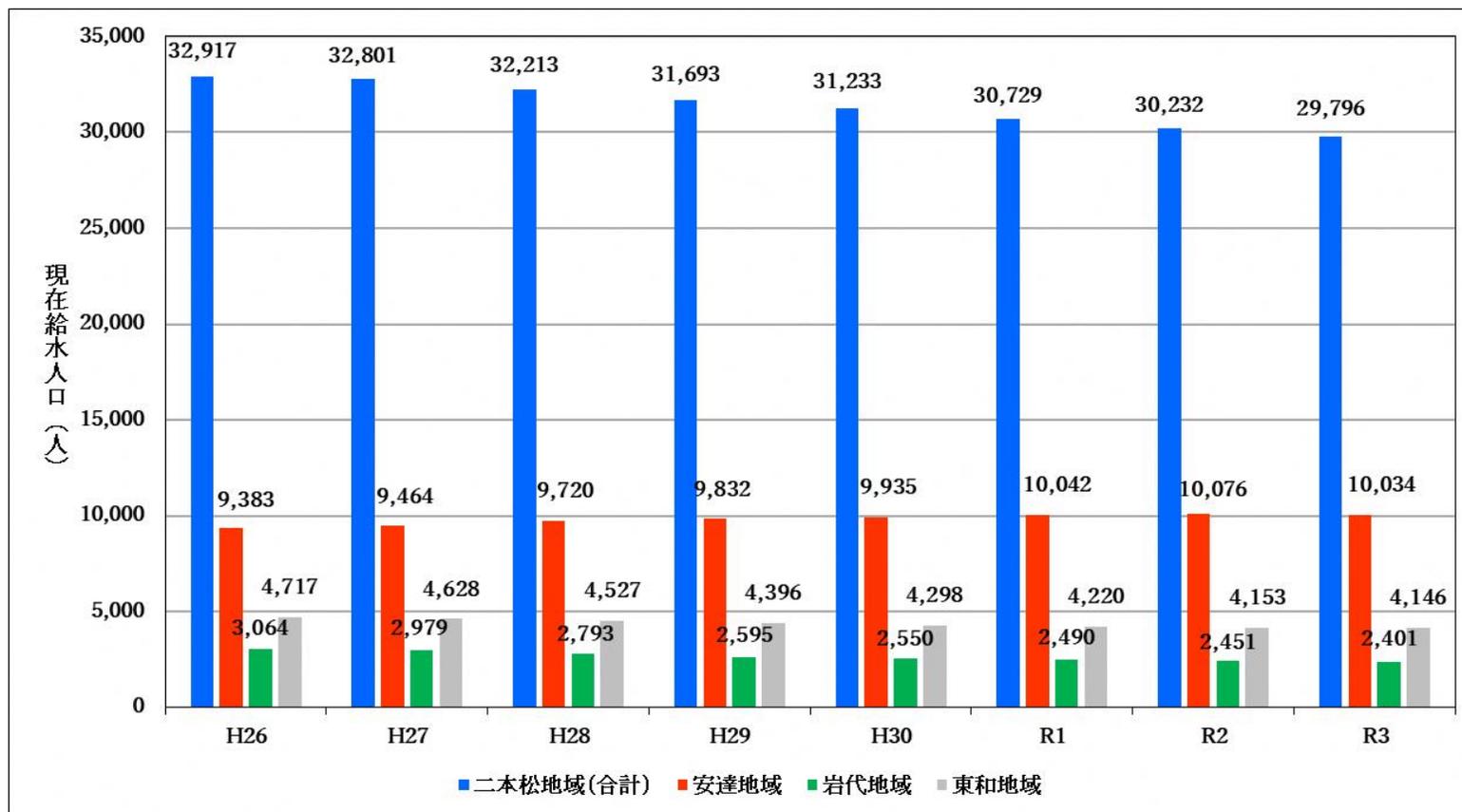
【 料金回収率（%）＝供給単価（円）÷ 給水原価（円） 】



出典：二本松市業務実績表

3. 行政人口・給水人口

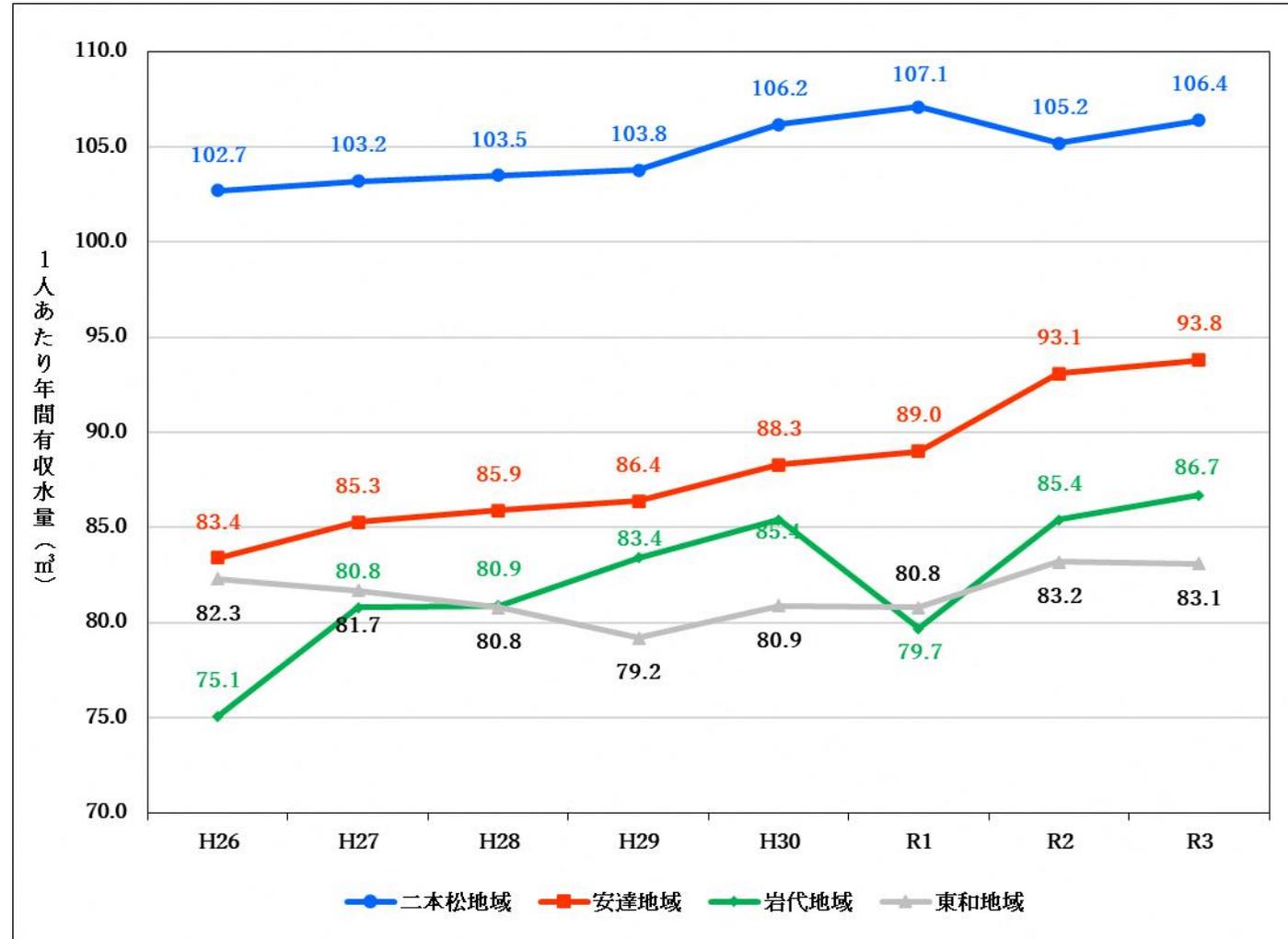
- ・平成26年度から令和3年度の8ヶ年において、安達地区を除く全ての地区で行政人口、給水人口共に減少している。
- ・平成26年度から令和3年度における給水人口の減少率は、約10～23%程度である。
- ・安達地区は7%程度の給水人口増加が確認できる。



出典：二本松市業務実績表

4. 使用水量

- ・ 岳地区を除く全ての地区で、1人あたりの有収水量は微増傾向にあることが分かる。
- ・ 給水人口は年々減少していることから、今後の水需要の増加が想定される。



出典：二本松市業務実績表

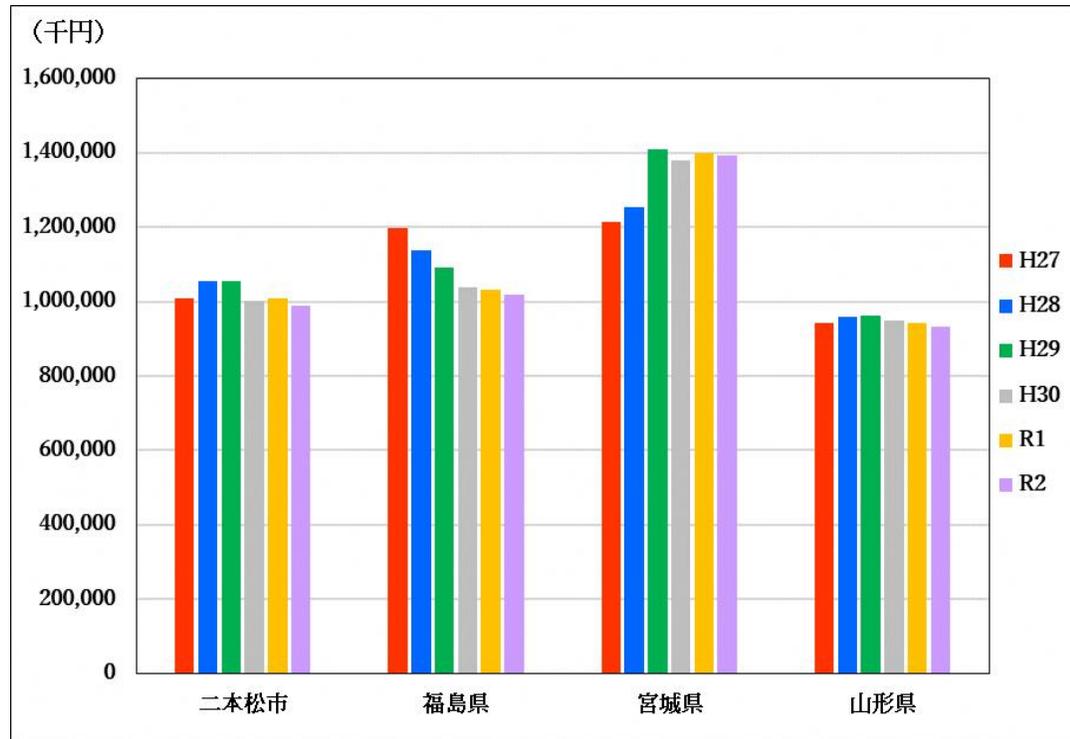
5. 他団体との比較

- ・比較対象は、隣県（福島、宮城、山形）のうち、二本松市と同規模の市を集計し平均した値を各県の数値とする。
- ・総務省の分類において、二本松市は「A5」に分類される。

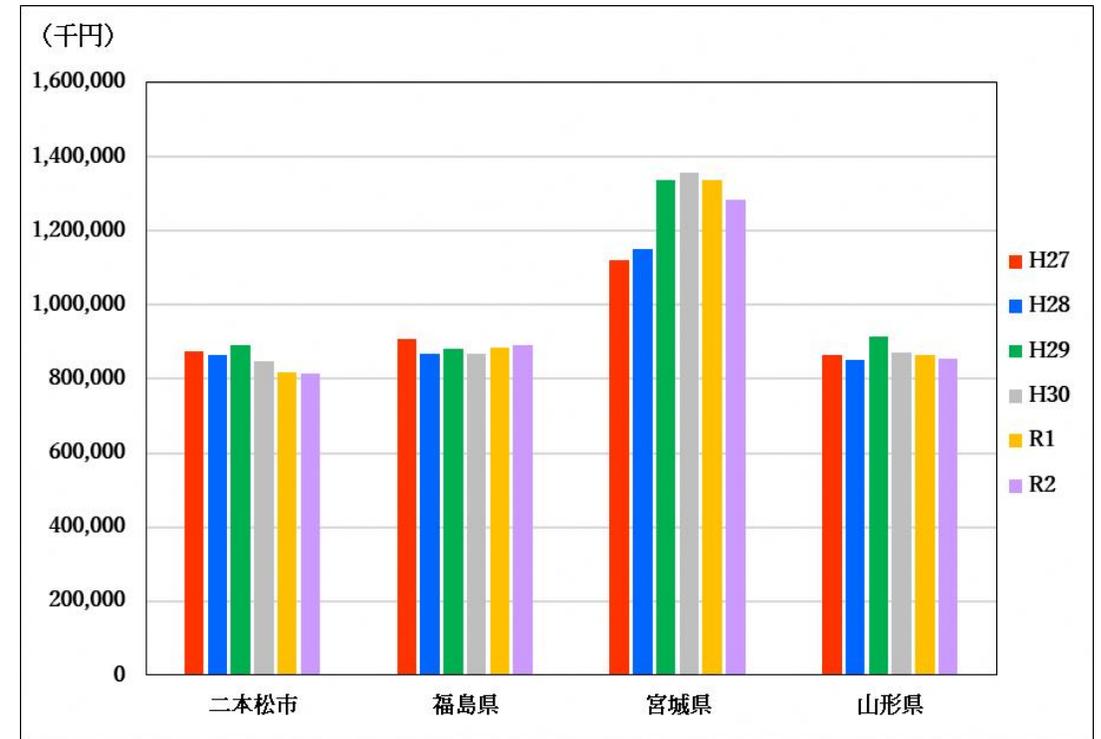
水源別区分		給水人口規模別区分		有収水量密度別区分	
A	ダムを主とする	1	30万人以上	大文字	全国平均以上
B	受水を主とする	2	15万人～30万人	小文字	全国平均以下
C	表流水を主とする	3	10万人～15万人		
D	その他	4	5万人～10万人		
		5	3万人～5万人		
		6	1.5万人～3万人		
		7	1万人～1.5万人		
		8	5千人～1万人		
		9	5千人未満		

5. 他団体との比較

- ・宮城県を除き、総収益は減少傾向にある反面、総費用は増加傾向にあることが分かる。
- ・宮城県は、「みやぎ型管理運営方式」の導入により総費用が減少傾向にある。



総収益の推移



総費用の推移

出典：水道統計（平成27年度～令和2年度）